

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）

分担研究報告書

研究分担者 竹石恭知（福島県立医科大学医学部・主任教授）

特発性心筋症に関する調査研究

研究要旨

本研究班は、1974年に旧厚生省特定疾患調査研究班として、特発性心筋症の疫学・病因・診断・治療を明らかにすべく設立され、その後約40年間継続して本領域での進歩・発展に大きく貢献してきた。本研究は、心筋症の実態を把握し、日本循環器学会、日本心不全学会と連携し診断基準や診療ガイドラインの確立をめざし、研究成果を広く診療へ普及し、医療水準の向上を図ることを目的とした。研究班による全国規模での心筋症のレジストリー、特定疾患登録システムの確立を推進準備し、心筋症をターゲットとした登録観察研究であるサブグループ研究を開始し、登録をすすめた。また、研究成果の社会への還元として、ホームページ公開や市民公開講座を行った。

A. 研究目的

経皮的冠動脈インターベンションを受ける冠動脈患者において、Academic Research Consortium for High Bleeding Risk (ARC-HBR)基準は出血イベント予測能を持つことが最近報告された。本研究では、心不全患者において簡易版 ARC-HBR 基準が高出血リスク患者を同定することができるのか調査した。

B. 研究方法

2,437名の心不全入院患者を簡易版ARC-HBR基準により高出血リスク群2,026名（83.1%）と非高出血リスク群411名（16.9%）に分類した。退院後の出血イベント（出血性脳卒中または消化管出血）発生に関して経過観察を行った。

（倫理面への配慮）

書面によるインフォームド・コンセントを取得した。

C. 研究結果

高出血リスク群はより高齢で冠動脈疾患の合併は低率であった。 Kaplan-Meier解析では高出血リスク群にて退院後の出血イベント（出血性脳卒中または消化管出血）発生が高率であった（log-rank $P < 0.001$ ）。 Fine-Grayモデルでは簡易版ARC-HBR基準は心不全患者の出血イベントと関連していた（ハザード比2.777、95%信頼区間1.464–5.270、 $P = 0.001$ ）。

D. 考察

心不全患者における出血イベントは高率でありリスク層別化が重要であるものと思われた。

E. 結論

簡易版 ARC-HBR 基準は心不全患者における出血イベントの予測に有用であることが明らかとなった。

F. 健康危険情報

該当しない。

G. 学会発表

1. 論文発表

Simplified Academic Research Consortium for High Bleeding Risk (ARC-HBR) Definition Predicts Bleeding Events in Patients With Heart Failure; Sato Y, Yoshihisa A, Takeishi R, Ohara H, Sugawara Y, Ichijo Y, Hotsuki Y, Watanabe K, Abe S, Misaka T, Sato T, Oikawa M, Kobayashi A, Nakazato K, Takeishi Y. *Circulation Journal*. 2021, 86(1), 147-155, DOI:10.1253/circj.CJ-21-0686. PMID: 34707066

2. 学会発表（発表誌面巻号・ページ・発行年等も記入）

米国心臓病学会 2021, 日本循環器学会2022

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定も含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし